



出羽一宮鳥海山坂田浦眺望図 (紀豊古筆) / 江戸後期

酒田市立資料館第 213 回企画展

酒田湊と北前船

— 土地・もの・人の縁 —

令和元年

9月7日(土)～11月18日(月) **会期中無休**

開館時間 午前9時～午後4時30分

入館料 一般100円(10月1日より110円)
小学生～大学生50円(土日は小中学生無料)

★11月3日(文化の日)は入館無料★

酒田市立資料館
SAKATA CITY MUSEUM



〒998-0046 山形県酒田市一番町8-16
TEL/FAX: 0234-24-6544
✉ sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp

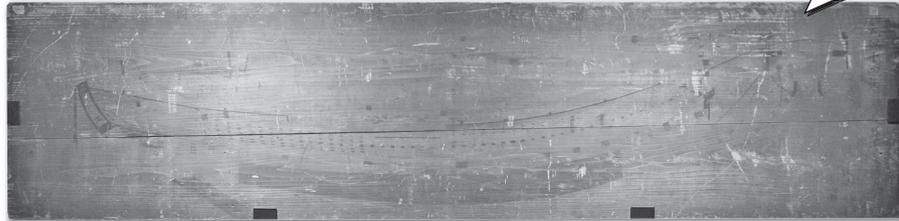


弁才船「万福丸」模型

酒田湊と北前船 - 土地・もの・人の縁 -

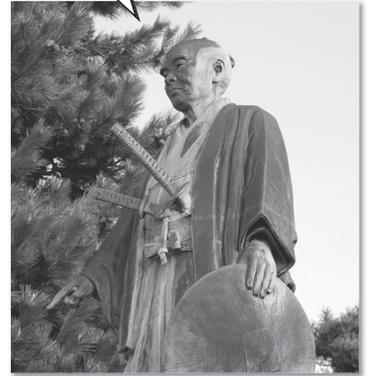
寛文12年(1672)、河村瑞賢の西廻り航路整備により海上物流の拠点となり、蝦夷地(北海道)と西国を結ぶ北前船交易の発展とともに隆盛を極めた酒田湊。今も、日和山の常夜灯や方角石などの遺物が、往時の繁栄ぶりを伝えています。

本企画展では、庄内はもとより県内外の多くの方々にご協力いただき、酒田と全国各地の商人の間で行われた商売の記録、各地の船乗りが酒田の寺社に奉納した船絵馬など、北前船がつないださまざまな「縁」を伝える資料を展示します。北海道に渡りニシン漁で財をなした青山留吉(遊佐出身)など、北前船の時代に活躍した人物も紹介します。



日和山公園にある河村瑞賢像

伊勢生まれの瑞賢は、寛文12年(1672)、幕府の命を受け、最上川流域の幕府領の米を酒田から江戸に運ぶ「西廻り航路」を整備した。これが後の北前船の発展につながっていく。

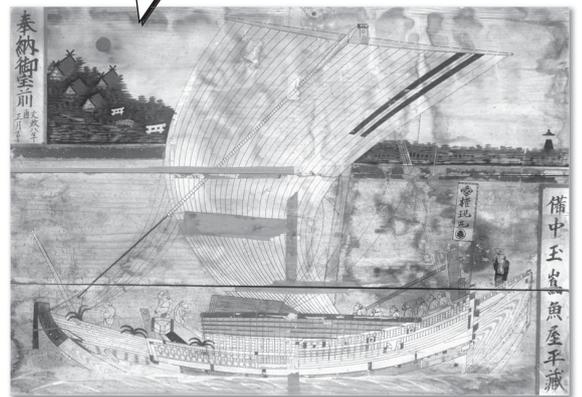


万福丸十歩之図(天保14年) 山形大学附属博物館寄託

山形の紅花商人・村井家が酒田から敦賀まで紅花を運んだ弁才船「万福丸」の設計図。幅約3メートルの板に書かれている。

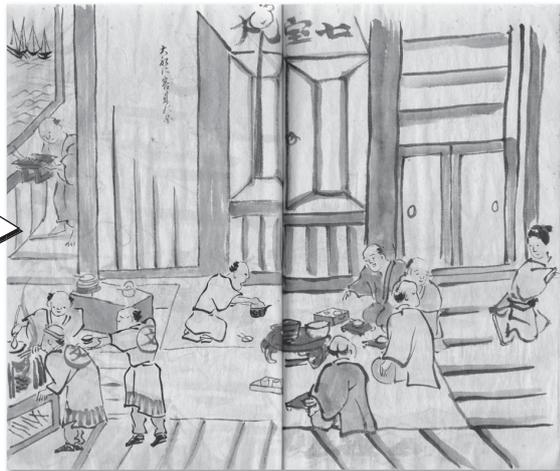
船絵馬「権現丸」 / (公財) 致道博物館蔵

文政8年(1825)、日和山公園に隣接する皇大神社境内にある金比羅神社に、備中玉島(岡山県倉敷市)魚屋平蔵が奉納した。



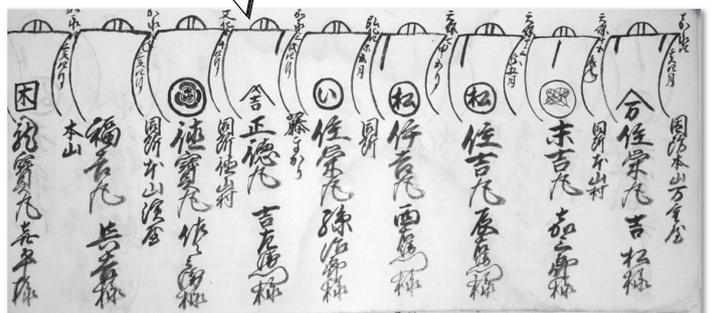
飛鳥図絵(複製本)

北前船と思われる大船の中で客をもてなしている風景。飛鳥の鳥役人・佐藤梅雨が天保11年(1840)に制作した原本を明治時代に写したものの。



船印控帳(文化~文政) / 酒田市立光丘文庫蔵

船問屋が、港に出入りした船の帆印、船名、船主・船頭の名前、入港日などを記録した、いわば顧客名簿を御客船帳、船印帳などと呼んだ。これは宮野浦にあった廻船問屋の船印帳。



展示協力 (五十音順)

新谷隆氏、小野寺雅昭氏、工藤幸治氏、酒田市立光丘文庫、高砂自治会、(公財)致道博物館、鶴岡市郷土資料館、東京都立中央図書館特別文庫室、豊岡市教育委員会、樋口信義氏、日和山観光株式会社、福王寺、防府市教育委員会、山形大学附属博物館、山崎久氏、山寺芭蕉記念館、遊佐町教育委員会



江戸~明治時代、京都から酒田にお茶を運ぶのに使われた茶箱。裏面に「渡海安全」の墨書きがある。役目を終えてからは、雛人形の収蔵に使われている。

資料館調査員による展示解説

日時 / 9月28日(土) 午前10時~(1時間程度)

会場 / 酒田市立資料館 1階企画展示室

料金 / 無料(入館料別途必要)

申込 / 9月7日(土)より受け付け

※駐車場に限りがありますので、申し込み時にお問い合わせください。

☎ TEL 0234-24-6544

次回企画展予告

第214回企画展 まなびとあそび 昔の子どものくらし(仮)

令和元年11月23日(土)~令和2年2月11日(火)